

中古艇ディーラー訪問

浜寺ボート (大阪府堺市)

6メートルカッターボートに新たな可能性。
信頼に裏打ちされたレストア技術も健在

70艇を収容できる設備を誇る

「2017年度もありがたいことに1年を通して忙しくさせていただきました」と語るのは大阪府堺市の浜寺ボート、マーケティング統括責任者の田中龍介氏。同社所有艇の販売を軸に、全国のオーナーからのレストアを受けている。また、最大70艇収容できるマリナを抱え、設備の充実した工場では全国から仕入れたヨットやボート、エンジンの整備を行い展示販売されている。「昨年度は、入荷した艇を想定以上にスピーディーに購入いただけたり、在庫期間の長かった艇もご購入いただくことができました。中古艇の販売自体や、それににつながるお問い合わせというのは、マーケットの温度感や必要とされているニーズなどを直接知ることができる機会の一つですので本



6メートルカッターボート全景。同社では製造と販売を行っている

に大事にしています。ただ、全体としてタイトなスケジュールを組むことが多く、それぞれのオーナーさんとしっかりと向き合うことが難しい、と感じることもありました。弊社としても満足できない部分もあり、新たな課題も見つかる収穫の多い1年でした」

6メートルカッターボートを製造、販売

そんな多忙な中、2017年度は6メートルカッターボートの注文が2艇あったそうだ。同社では、8年前から6メートルカッターボートの製造と販売を行ってきた。ハルとデッキの製造はもちろん、各機装パーツの取り付け、4mの角材から削り出して製作するオール、カッターボートを載せる専用船台まで、すべて同社で施工している。

「これまでに合計9艇のカッターボートを全国に納めさせていただきました。納入先としては基本的には公的な機関がメインとなりますが、民間企業さんにも2艇購入いただいています。社内にカッター部がある大きな企業さんと、学生の時にカッターボートを漕いでいた経験をお持ちの方が代表をされている企業さんにご購入いただきました」

あまり知られていないかもしれないが、全

国では毎年「カッターレース」というものが各所で開催されている。八戸や敦賀、下関など港と縁のある地域でも開催されており、2017年5月に横浜で開催された「第34回横浜港カッターレース」には約200チームが参加している。その大会で使用されているのが、同社で製造している6メートルカッターボートである。

「開催時期は春夏が多く、ヨットやボートのハイシーズンになるのでなかなか大会を観戦する機会はないのですが、2010年に『神戸港カッターレース』を観戦しました。参加しているチームも、シニアから大人、女性や子どもまで幅広いチームが参加されていました。協賛企業もたくさんあり、いずれは民間企業さんからお問い合わせいただけるかな、とは考えていました」

新たな可能性を感じる 6メートルカッターボート

2017年度に注文があった2艇のうち、1艇はその民間企業からだった。しかも船外機を搭載するプレジャーボート仕様のボートが希望。

「初めてオーナーさんと打ち合わせした時に、開口一番『エンジンを付けてほしい』と言わ

れました。いろいろと話をしていくと、『神戸港カッターレース』に向けてご友人たちとしっかり練習をしたい、というのがご購入の理由。しかしながらチームのみなさんが年を重ねてきておりオールを漕いでばかりもいられない、だから練習後はエンジンで簡単に帰りたい、という切実なご依頼でしたよ(笑)」

2015年版の本誌でも紹介しているが、同社では過去にも一度カッターボートにエンジンを搭載している。しかし、それは愛知県にあったツボキヨットが過去に製造していた中古カッターボート。小型船舶の登録上の製造者はあくまでもツボキヨットだった。また、当時のオーナーは釣り船としての使用が前提だったため、ラダーを取り外し、その代わりに船体に直接船外機を取り付けて船外機のハンドルで操船するという、施工する上でとても簡易な方法でよかった。しかし、今回は通常のカッターボートとして、どう漕練習もできるようにするのが前提である。船外機はあくまでも推進機であり、ラダーで操船できるようにしなければならず、同社では船体トランサム面を補強した上で船外機ブラケットを取り付ける方法で施工した。

「船外機を取り付けた時点で登録上は小型船舶になりますから、通常のカッターボートとして受検している標準適合検査と同時に、JCIの新規登録が必要でした。また、今回は新艇で製造者も浜寺ボートになりますので、船体識別番号の業者登録をするために陸運局にも届け出をしました。いろいろと手続きは大変でしたけれども、船体識別番号だったり小型船舶のシールが貼られた、いわゆる普通のプレジャーボートとしてのカッターボートを見たときに、『これだけじゃもったいないな』という感情が生まれました。センターコンソール仕様のインボードエンジンを搭載したり、小さくてもキャビンを作ったり、そういった展開がこれからも期待できるんじゃないか、と考えています」

レストアの問い合わせは 全国から

全国のオーナーからのレストア依頼についても話を聞いた。

「ありがたいことに、相変わらずいろいろなご相談をいただいています。問い合わせの数で言うと、在庫艇の販売に関するものよ

りもレストアの問い合わせのほうが多いと思います。なかでも地方でボートやヨットを所有されているオーナーさんは、メンテナンスで苦労されているように感じます。メンテを受けてくれる業者さんがいない、エンジンは整備できるけれどもFRPは難しい、ボートは大丈夫だけれどもヨットはダメ、というような悩みがあるようです。弊社としては1艇でも多くレストアのご依頼に応えたいとは思いますが、やはり設備が整ったこの場所でお互いに満足のいくレストアができないと考えているので、残念ではありますがお断りするケースも多くなります」

取材当日の工場では、広島からオーナー自らが回航し同社のレストアを待っているヨットや、電食により腐食したアルミ製燃料タンクをFRP製に交換するためデッキを大きく開口しているスポーツフィッシャー、プレーニングボードを新たに作るために特注のモールドがセットされているモーターセーラーなどが並んでいた。同社の充実した設備と技術力の高さが、同氏の言う「カッターボートの新たな可能性」とうまくコネクトすると面白いものができるだろう。



トランサム面にブラケットを取り付け、船外機仕様になっている6メートルカッター



標準適合検査と、新規船舶登録の同時受検は非常に珍しいといえるだろう



大型のFRP製品を製作するときを使う定盤。およそ2.5×5メートルの大きさ



チークデッキを切り開き、燃料タンクをアルミ製からFRP製に交換した状態

浜寺ボート / 浜寺産業株式会社

〒592-8333 大阪府堺市西区浜寺石津町西5丁10-7
TEL: 072-262-3222 FAX: 072-262-6527 <http://www.hamaderaboat.co.jp/>
facebook: <http://www.facebook.com/hamaderaboat>

浜寺ボートの特選中古艇、中古エンジン

当社所有艇



ジャーノボヤージュ 11.20
630万円

H元年進水、ヤママー4H(シャフト)、ステアリング、ジプファーラー、陸電、セルテラーリングウインチ、ビミニトップ、ドジャー、オートパイロット

オススメのポイント

エンジンはすべて分解し、ピストンリングも交換済み。シャフトやラダーも一度外して点検を行っており、エンジンを含めた足回りは安心できる。

当社所有エンジン



キャタピラ 3208TA
260万円

375HP、当社にてフルオーバーホール済

オススメのポイント

0.5mmオーバーサイズピストン(8シリンダー)を入れているので、シリンダー内はポーリング及びホーニング加工済み。シリンダーヘッド面研及び噴射ポンプ分解整備済みで程度良好。

Buy
Sell
Transport
Mooring
Restore
Tug
Sailing
Scrap



HAMADERA BOAT office@hamaderaboat.co.jp
072-262-2222